



# 日本女医学会誌

復刊第 206 号  
2011 年 4 月 25 日発行  
題字 吉岡彌生

## 巻頭言

# 日々を充実して過ごすことで

副会長 山本 纈子

皆様は 3 月 11 日午後 2 時 46 分頃、どのようにお過ごしでしたか？ まさにこの時にマグニチュード 9.0 などという未曾有の地震が、東海・東南海ではなく東北・関東地方に来るなどと誰が想像したでしょう。地震後の海岸線の変化から千年ほど前に類似の大地震があったと報道されていましたが、千年ほど後が 3 月 11 日であったとは……。

震災で儂くなられた方々に心よりのご冥福、被災されてご苦勞の最中の方々に心よりのお見舞、ご家族・友人を亡くされた方々に衷心よりお悔やみを申し上げます。

毎日テレビで拝見する惨状に対し、お見舞いやお悔やみの言葉は、枯葉 1 枚にも値しません、心を寄り添わせつつ、とりあえず必要な義援金を日本女医学会手持ちの基金から日本赤十字社を通じて拠出いたしました。しかし、現地では復興に向けて力強く歩み始めており、日本女医学会としても被災地の会員から情報を頂きながら更なる支援策を検討して参ります。呼び

かけに応じて会員の皆様から多額の義援金が寄せられておりますので、被災地の皆様と支援頂いた会員の皆様のお気持ちを反映した日本女医学会ならではの方策を考え、実行する所存です。

さて、第 10 回世界女医学会西太平洋地域会議の開催は、今年の重要な任務で、数年来、着々と準備して参りましたが、この震災・津波の被害と福島原発の放射能漏出の影響を考え、日本女医学会として中止を本部に申請し、許諾されました。会員の皆様が海外の会員と交流する機会を失い、誠に残念ですが、御甘受下さる様御願い致します。

私のみでなく、多くの方々が被災や関連学会・イベントの中止で、少々気力が萎えたと感じていますが、Apple 社 CEO の Steve Jobs が、Stanford 大学卒業式で「毎日、これが人生最後の日と思って生きなさい。やがて必ずその通りになる日がくるから。」と述べた言葉を思い出し、日々を充実して過ごすことでこの閉塞感を払拭したいものです。

## 謹んで東日本大震災のお見舞いを申し上げます。

去る 3 月 11 日に発生した大震災によって被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。それとともに、お亡くなりになりました皆様のご冥福をお祈り致します。

被災された皆様の一日も早い心身のご回復と地域の復興を心からお祈り申し上げます。

(社) 日本女医学会会長 津田 喬子

## 日本女医学会誌 (第206号) もくじ

巻頭言	山本 纈子 (1)	平成 23 年度第 65 回「児童福祉週間」のお知らせ	(12)
委員会報告		理事会議事録	(13)
子育て支援委員会	対馬ルリ子 (2)	会員動静	(16)
女性医師支援委員会	澤口 彰子 (3)	第 56 回定時総会のお知らせ	(17)
第 15 回ブロック懇談会報告 岐阜	宮崎 千恵 (6)	東日本大震災 義援金のご報告	(18)
寄付者		「第 10 回国際女医学会西太平洋地域会議」開催中止のお知らせ	(19)
平成東海地震への備え 2011	青木 正美 (9)	追悼・日本女医学会元副会長 野澤良美	(19)
米国女性外科医 第 2 回キャリア・シンポジウムに参加して	富澤 康子 (12)	日本女医学会よりご案内	(20)
		編集後記	(20)

## 委員会報告

### 子育て支援委員会

委員長 対馬ルリ子

#### ゆいネット活動報告

日本女医会は、国際女医会と連動し、女性と子どもの健康を守る活動を続けています。

独立行政法人福祉医療機構の助成金を得て活動している子育て支援委員会の「十代の性の健康を支援するネットワーク（通称：ゆいネット）事業」では、2008年度より思春期の子どもの性の健康を守るネッ

トワーク作りをめざし、全国6か所の地域で医療、警察、福祉、教育などを横断的に連携する連絡協議会を開いてきました。今年で3年間の事業が終了するため、総括として、2月20日（日）に報告会&公開シンポジウムを開催いたしましたのでご報告します。

シンポジウムのタイトルは、“思春期の子どもの健康を守る大人たちのネットワーク作り～無知と貧困と暴力の連鎖を断ち切るために～”です。

この3年間、札幌、盛岡、名古屋、岡山ではじまり、茨城、岐阜の6地区にひろがったゆいネットの連絡協議会、それぞれ地域で独自に行われた勉強会・研究会、交流会を通じて、全国各地で同様な、無知と貧困、

#### プログラム

社団法人日本女医会 子育て支援委員会 「十代の性の健康」  
支援ネットワーク ゆいネット公開シンポジウム

思春期の子どもの健康を守る大人たちのネットワークづくり

#### ～無知と貧困と暴力の連鎖を断ち切るために～

日時：2011年2月20日（日）13：00～17：00

場所：ルークホール（新宿区四谷1-7（株）持田製薬本社ビル）

会費：500円（資料代）

◆開会の挨拶 日本女医会会長 津田喬子

- ◆報告（モデル地区から）
- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 1. 札幌 委員：堀本 江美 | 4. 岐阜 委員：廣瀬 玲子  |
| 2. 盛岡 委員：斎藤 恵子 | 5. 名古屋 委員：丹羽 咲江 |
| 3. 茨城 委員：和田 由香 | 6. 岡山 委員：金重恵美子  |

#### ◆公開シンポジウム

「思春期の子どもの健康を守る大人たちのネットワークづくり」

～無知と貧困と暴力の連鎖を断ち切るために～

1. 若年で妊娠・出産し、ひとり親になる人々たちへの支援 東京・婦人保護施設 慈愛寮 細金 和子氏
2. メール相談を通じてわかったこと 岡山・ウイメンズクリニックかみむら院長 上村 茂仁氏
3. 子どもから事実を聞く司法面接  
札幌・北海道大学大学院文学研究科人間システム科学専攻  
心理システム科学講座 教授 仲 真紀子氏
4. 女性医療として性暴力被害者支援を考える  
性暴力救援センター・大阪（通称 SACHICO）  
代表 加藤 治子氏

◆ディスカッション 子育て支援委員長 対馬ルリ子

#### ◆閉会の言葉

日本女医会元副会長／子育て支援委員 鹿田 儀子

総司会：子育て支援委員 早乙女智子



性の健康をおびやかす若年妊娠、デートDV、ネグレクトや性虐待などの小児虐待が次々におこっており、かつ早いサイクルで次世代に受け継がれている現状があることがわかりました。

このような連鎖を断ち切り、ほんとうに健康で幸せな生活を子どもたちに提供しようと奮闘している大人たち（支援者や専門家）が全国にいます。しかし、横に連携し、ひろく、長く、支援していかなければこの問題は解決に向きません。そこで、母子寮などの実態をお聞きし、メール相談、司法面接、ワンストップセンターなど、新しい試みをされている専門家のお話を伺いながら、わたしたちがこれから何ができるのか、何をすべきなのかを考える機会としました。

当日は四谷のルークホール（持田製薬本社）に100名以上の参加者が集まり、各地のモデル地区のゆいネット委員からの活動報告のあと、公開シンポジウムが開かれ、熱い討論がなされました。これまで実態を知らず、認識が薄かったこの問題について、今後も皆で考え支援する機会が持てるように、活動していきたいと思います。

3年間、ご協力いただいた多くの方々に心より感謝申し上げます。



持続性アンジオテンシンII受容体拮抗剤  
処方せん医薬品<sup>※</sup> **薬価基準収載**

**ブロプレス<sup>®</sup>錠 2.4/8.12**  
(カンデサルタン シレキセチル錠)

持続性アンジオテンシンII受容体拮抗薬/利尿薬配合剤  
処方せん医薬品<sup>※</sup> **薬価基準収載**

**エカード<sup>®</sup>配合錠HD**  
(カンデサルタン シレキセチル/ヒドロクロチアジド配合錠)

持続性アンジオテンシンII受容体拮抗薬/持続性Ca拮抗薬配合剤  
劇薬・処方せん医薬品<sup>※</sup> **薬価基準収載**

**ユニシア<sup>®</sup>配合錠HD**  
(カンデサルタン シレキセチル/アムロジピンベシル酸塩配合錠)

注)注意—医師等の処方せんにより使用すること  
◆効能・効果、用法・用量、使用上の注意、および取扱い上の注意等については、添付文書をご参照ください。

〔資料請求先〕  
**武田薬品工業株式会社** 〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号  
<http://www.takeda.co.jp/>

(1006)T

## 女性医師支援委員会

委員長 澤口彰子

男女共同参画社会基本法が制定されて、約12年を迎えようとしています。しかし女性医師をはじめとして、女性の社会参画は充分には進んでおりません。家庭・地域・仕事の両立（ワーク・ライフ・バランス）も先行きは険しいように思えます。そのため、日本女医会を含む各女性団体は、男女ともに個人の人格が尊重され、人権が守られ、能力が発揮できる活力ある社会をめざしながら、男女共同参画政策の促進に取り組んでいます。

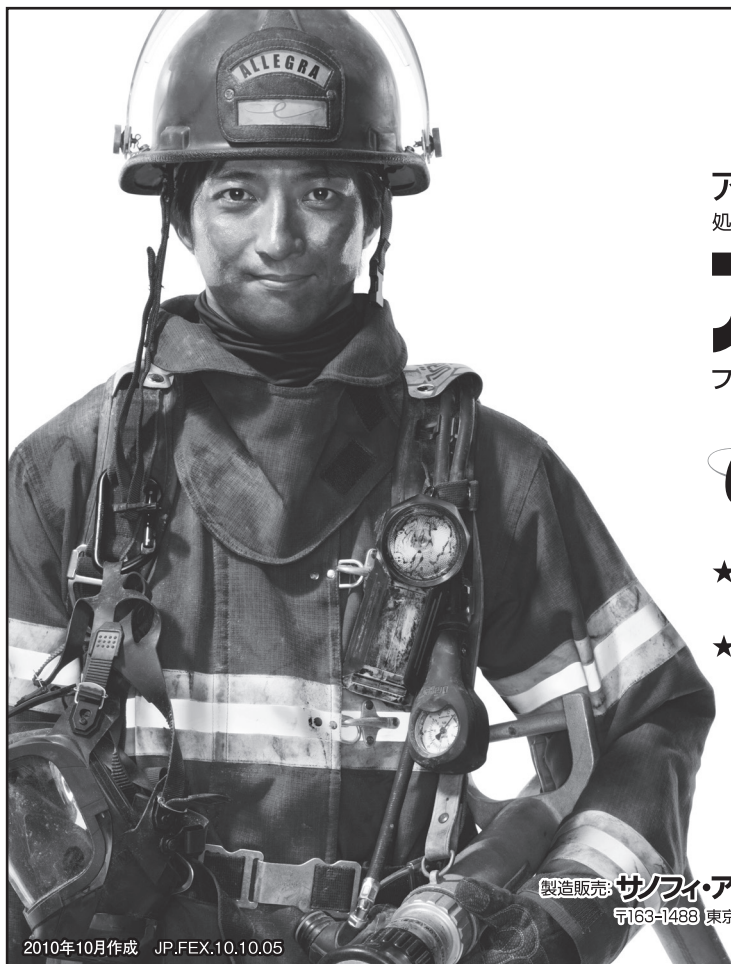
日本女医会でも、平成21年より「女性医師支援委員会」を立ち上げました。目的は、女性医師のキャリアアップをサポートすることです。平成21年度は荒木前理事を中心として、女性医師のキャリアアップのためのシンポジウム開催などに取り組みました。その結果を女性医師支援のための要望書としてまとめ、記者クラブでの発表や関係諸官庁への提出などの活動を行いました。

平成22年度からは、日本女医会の庶務、事業、学術、広報、渉外などの各部から、順に小関、藤川、前田、大谷、秋葉、澤口の各理事を委員に選出し、「女性医師支援委員会」が運営されることになりました。委員長に澤口が推薦されました。よろしくお祈りします。

女性医師としての働き方は、結婚、出産、育児、高齢者の介護などのために、その過程で、男性医師より多様な就労状態や空白期間が多く認められます。この就労環境を改善し、さらにキャリアアップのために、いろいろな対策・支援を考えていく必要があります。更に、

1. 「21世紀の病院に求められるのはどんな医師か？」
2. 「これからの病院医療を支えるキーパーソンを養成するには？」
3. 「チーム医療のリーダーとして医療の質を高められる人材を目指すには？」
4. 「管理職として知っておくべき組織運営や経営の基礎は？」などの現在の医療の課題も思慮する必要があります。

これらを可能にするには、臨床・教育・研究について若手医師の指導に当たれる実力をもち、他の専門職種とのスムーズな連携を可能にし、経営的な視点も理解できるリーダーとなる必要があります。



### アレルギー性疾患治療剤

処方せん医薬品（注意—医師等の処方せんにより使用すること）

# アレグラ<sup>®</sup>錠 30mg アレグラ<sup>®</sup>錠 60mg

フェキソフェナジン塩酸塩製剤 ●薬価基準収載

## allegra<sup>®</sup>

★効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む使用上の注意等については、現品添付文書をご参照ください。

★資料は当社医薬情報担当者にご請求ください。

製造販売：サノフィ・アベンティス株式会社  
〒163-1483 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

sanofi aventis  
Because health matters

これらの点を踏まえ、女性医師支援のためのシンポジウムを平成22年12月5日(土)に「女性と仕事の未来館(港区)」で開催しました。今回の国際的視野も含めた領域から女性医師のキャリアアップに役立つ講演、小宮山厚生労働副大臣の基調講演「女性医師支援に関する政府施策」、将来のワーク・ライフ・バランスに関する男女医学生のアンケート結果、現実のワーク・ライフ・バランスにおけるさまざまな立場からの発表のあと、「女性医師が辞めない職場とは」のパネルディスカッションを行いました。行政の立場からは厚生労働省雇用均等・児童家庭局石井審議官の「女性医師等就労支援事業」などについて、病院長の立場からは大阪厚生年金病院清野名誉院長の前記1~4の事項にも関係する統一的な観点と男性医師の意識改革について、今回初めての企画である医学生の立場からは女子医大5年生の自らの家庭(母が女性医師)をロールモデルにした状況と将来の希望についてなどの意見があり、これらの意見の可能性を論議しました。

このシンポジウムで得られた事柄を小冊子にまとめ、行政、メディア、各大学医学部・医科大学に発送し、女性医師のキャリアアップについての理解及び男女共

同参画政策へ反映されることを目標としています。また、今回のシンポジウムにおいての学生アンケート調査を全国の各大学医学部・医科大学の男女医学生に協力をお願いすることも目標としています。更に、本シンポジウムについては、現在、日本における女性医師の「働き方」について取材をすすめているNHKの国際放送(NHKが海外に向けて放送している電波)で英語によるニュース番組「NEWSLINE」を担当の福永記者から「日本女医会のHPでシンポジウムの報告を拝見し大変興味深く読ませていただきました。当日リアルタイムで拝聴できれば一番良かったのですが、それがかなわなかったこと残念に思っています。ぜひ会場でどのような現状報告、意見があったのか知りたいと考えています。ご担当の先生に、内容についてご説明していただきたい」との取材オファーがありました。日本女医会の男女共同参画政策への取り組みも効果をあげつつあると実感しております。

更に、平成23年9月4日(日)には、持田製薬本社 ルークホール(東京都新宿区四谷1-7 四谷駅下車徒歩2分)にて、女性医師支援のための様々の団体からの演者によるシンポジウムを開催し、女性医師支援のためのネットワーク作りを企画しています。




過活動膀胱治療剤(コハク酸ソリフェナシン錠) 薬価基準収載

**ベシケア<sup>®</sup>錠** 2.5mg  
5mg

処方せん医薬品  
(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

**Vesicare<sup>®</sup>**

■「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売 **アステラス製薬株式会社**  
東京都板橋区蓮根3-17-1

[資料請求先] 本社/東京都中央区日本橋本町2-3-11

# 第15回 ブロック懇談会報告（岐阜）

理事 宮崎千恵

平成23年2月27日（日）に岐阜市のじゅうろくプラザにおいて、第15回日本女医会ブロック懇談会が開催されました。

午前の部は、日本女医会より、津田喬子会長の他、

山本纈子副会長、山崎トヨ、小関温子、宮本治子、藤川真理子、宮崎の7名、岐阜ブロック会員より新美佐知子先生以下学生会員4名を含む28名の参加者でした。



## プログラム

1. 開会の辞 (社) 日本女医会 宮崎 千恵
2. 挨拶 (社) 日本女医会会長 津田 喬子  
(社) 日本女医会岐阜県支部 支部長 新美佐知子
3. 講演
  - (1) 日本女医会の事業と活動 会長 津田 喬子
  - (2) 日本女医会における女性医師支援について  
(社) 日本女医会女性医師支援委員会 藤川真理子  
岐阜県医師会 会長 小林 博
4. 懇親会挨拶
5. 話題提供
  - (1) 岐阜県医師会男女共同参画推進の取組み - 現状報告と今後の課題 -  
岐阜県医師会常務理事 戸谷理英子
  - (2) 日本女医会と日本医師会の女性医師支援とのかかわり  
(社) 日本女医会 理事 宮崎 千恵
6. 意見交換 (日本女医会理事:山崎トヨ、小関温子、宮本治子、宮崎千恵)  
(日本女医会岐阜県支部参加者、学生、研修医会員)  
(岐阜地区男女共同参画委員会委員、岐阜地区女医会会員 他)
7. 閉会の辞 (社) 日本女医会副会長 山本 纈子



まずはじめに、日本女医会津田喬子会長より、続いて新美佐知子岐阜支部長より挨拶がありました。次に、津田会長による、日本女医会の100年以上にわたる歴史と女性医師支援や、吉岡弥生賞、荻野吟子賞などの授与など、現在行われている事業内容などと、国際女医会の日本女医会での役割などについての講演があり、藤川理事は、女性医師支援の説明と国際女医会の西太平洋会議の説明をされ、4人の新学生会員も熱心に聞いておられました。

午後は、会場を1階のレストランに移し、昼食をとりながらの意見交換会がおこなわれました。

岐阜県医師会の小林会長、常務理事で男女共同参

画担当の戸谷理英子先生、同じく常務理事で勤務医部会の白井正明先生、岐阜県医師会男女共同参画委員会の田中功委員長、清島真理子副委員長（日本女医会会員:岐阜大学皮膚科学教授）、男女共同参画委員の山本真由美先生（岐阜大学教授）、さらに津田会長の午後の講演を聴きたいと参加された名古屋市立大学の卒業医師2名などが加わり総勢34名の懇談となりました。

私の話題提供は、「日本女医会と日本医師会の女性医師支援とのかかわり」と題して、平成11年に、当時日本女医会の副会長であった、石原幸子先生や会員の青井禮子先生達が核となり、当時の坪井日医会長の指示のもと、日本全国から選出された女性医師10名（内日本女医会会員5名）が懇談会を立ち上げ、

4年間の審議を重ね、日本医師会に女性医師支援の必要性についての答申を提出しました。これが現在の日本医師会の女性医師活動の始まりであることを明確に説明し、岐阜県の先生方にご理解いただき、今日まで日本女医会が女性医師支援をまず最初に手がけてきたことを申し上げました。

その後、日本女医会会員と県の医師会会員とが、女性医師支援には、お互いが共同して、情報交換をしながら、より一層女性医師支援活動を高めていこうという結論になりました。

山本副会長の閉会の挨拶では、女子医学生・女性研修医をサポートあるいは再就労支援事業が展開されているが、個々の特殊な事情や表現しがたい感情的な背景が複雑かつ微妙に絡み合っている。綱渡りの就労をしている女性医師が何気ない一言によって就労を断念するケースは非常に多く、経済的にも余裕のない現状では女性医師を取り巻く人々（特に男性医師達）の女性医師への理解とその就労継続に協力するという画期的な意識変革が唯一の打開策と考えている。とのお話がありました。

また、今回、津田会長の大学の後輩や県医師会会員の中から是非日本女医会に入会したいといった要

望があり大変有意義なブロック懇談会になりました。懇親会の後、岐阜県医師会主催の津田会長による「これからの女性医師の育成と支援について」の講演にも、日本女医会会員のほとんどが残って参加し、津田先生が今日に至るまでの多難な道のりや、努力して築いた成果など素晴らしい講演を聴き、午後4時30分にすべてのスケジュールが終了しました。また、最後に遠いところからブロック懇談会に参加して応援いただいた庶務担当の理事の先生方（山崎、小関、宮本先生）にも厚くお礼申し上げます。

### 寄付者 (敬称略)

以下の通りお知らせいたします。  
ご協力誠にありがとうございました。



津田 喬子 (愛知支部)

**A-DERMA**  
AVOINE RHEALBA®

## 「メディカルケアを補う」 という発想。

**POLA  
PHARMA**

アデルマ  
ウオッシング バー  
(全身用固形洗淨料)

アデルマ  
ウオッシング ジェル  
(全身用液体洗淨料)

アデルマ  
エクソメガクリーム  
(全身用保湿クリーム)

アデルマ  
スキนครリーム  
(顔・体用保湿クリーム)

アデルマ  
エビテリアルA.Hクリーム  
(部分用ヒフケアクリーム)

### 敏感肌のスキンケア、アデルマ。

肌を健康な状態に整える、レアルバオート麦の抽出成分を配合。

昔から肌によいといわれるオート麦に着目。80種類以上ある品種の中から、保湿などの効果に優れたレアルバオート麦を選びだし、敏感肌の機能を補うさまざまな成分を発見しました。肌の状態や製品の目的に合わせて抽出した成分を、各製品に配合しています。

**製品に関するお問合せ**  
製造販売元  
**株式会社 ポーラファルマ**  
東京都品川区西五反田 8-9-5  
TEL 0120-50-2721 (通話料無料) FAX 03-5496-9718  
<http://www.pola-pharma.co.jp>



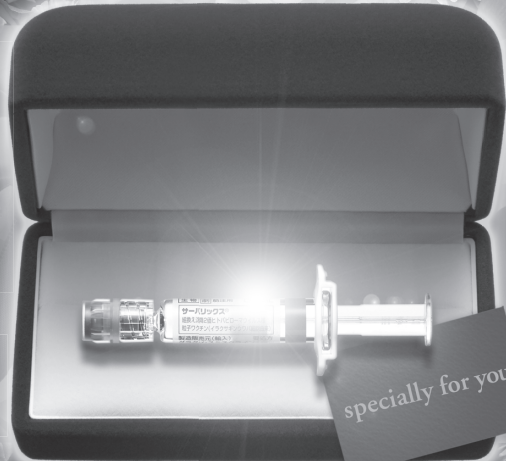
GlaxoSmithKline

生きる喜びを、もっと  
Do more, feel better, live longer

# より長い効果を目指して。 子宮頸癌予防ワクチン\*は、 サーバリックス。

主要原因ウイルスHPV 16型および18型感染を強く、長く、抑える。

\*ヒトパピローマウイルス(HPV)16型及び18型感染に起因する子宮頸癌(扁平上皮細胞癌、腺癌)及びその前駆病変(子宮頸部上皮内腫瘍(CIN)2及び3)の予防



## 【接種不適当者】(予防接種を受けることが適当でない者)

被接種者が次のいずれかに該当すると認められる場合には、接種を行ってはならない。

- (1) 明らかな発熱を呈している者
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- (3) 本剤の成分に対して過敏症を呈したことがある者
- (4) 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

## 【効能・効果】

ヒトパピローマウイルス(HPV)16型及び18型感染に起因する子宮頸癌(扁平上皮細胞癌、腺癌)及びその前駆病変(子宮頸部上皮内腫瘍(CIN)2及び3)の予防

### 効能・効果に関連する接種上の注意

(1) HPV-16型及び18型以外の癌原性HPV感染に起因する子宮頸癌及びその前駆病変の予防効果は確認されていない。(2) 接種時に感染が成立しているHPVの排除及び既に生じているHPV関連の病変の進行予防効果は期待できない。(3) 本剤の接種は定期的な子宮頸癌検診の代わりとなるものではない。本剤接種に加え、子宮頸癌検診の受診やHPVへの曝露、性感染症に対し注意することが重要である。(4) 本剤の予防効果の持続期間は確立していない。

## 【用法・用量】

10歳以上の女性に、通常、1回0.5mLを0、1、6ヵ月後に3回、上腕の三角筋部に筋肉内接種する。

### 用法・用量に関連する接種上の注意

他のワクチン製剤との接種間隔：生ワクチンの接種を受けた者は、通常、27日以上、また他の不活化ワクチンの接種を受けた者は、通常、6日以上間隔を置いて本剤を接種すること。

## 【接種上の注意】

### 1. 接種要注意者(接種の判断を行うに際し、注意を要する者)

被接種者が以下に該当すると認められる場合は、健康状態及び体質を勘案し、診察及び接種適否の判断を慎重に行い、予防接種の必要性、副反応、有用性について十分な説明を行い、同意を確実に得た上で、注意して接種すること。(1) 血小板減少症や凝固障害を有する者[本剤接種後に出血があらわれるおそれがある。](2) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する者(3) 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた者(4) 過去に痲疹の既往のある者(5) 過去に免疫不全の診断がなされている者及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる者(6) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人[妊婦、産婦、授乳婦等への接種の項参照]

### \*2. 重要な基本的注意

(1) 本剤は、「予防接種実施規則」及び「定期の予防接種実施要領」を参照して使用すること。

製造販売元(輸入)

**グラクソ・スミスクライン株式会社**  
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-6-15

(2) 被接種者について、接種前に必ず問診、検温及び診察(視診、聴診等)によって健康状態を調べる。(3) 被接種者又はその保護者に、接種当日は過激な運動は避け、接種部位を清潔に保ち、また、接種後の健康監視に留意し、局所の異常反応や体調の変化、さらに高熱、痲疹等の異常な症状を呈した場合には、速やかに医師の診察を受けるよう事前に知らせること。(4) ワクチン接種後に血管迷走神経反射として失神があらわれることがあるので、接種後30分程度は被接種者の状態を観察することが望ましい。(5) 本剤シリンドジのキャップ及びシリンダーには天然ゴム(ラテックス)が含まれている。ラテックス過敏症のある被接種者においては、アレルギー反応があらわれる可能性があるため十分注意すること。

## 3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること) 免疫抑制剤

## 4. 副反応

国内臨床試験において、本剤接種後7日間に症状調査日記に記載のある612例のうち、局所(注射部位)の特定した症状の副反応は、疼痛606例(99.0%)、発赤540例(88.2%)、腫脹482例(78.8%)であった。また、全身性の特定した症状の副反応は、疲労353例(57.7%)、筋痛277例(45.3%)、頭痛232例(37.9%)、胃腸症状(悪心、嘔吐、下痢、腹痛等)151例(24.7%)、関節痛124例(20.3%)、発疹35例(5.7%)、発熱34例(5.6%)、蕁麻疹16例(2.6%)であった。海外臨床試験において、本剤接種後7日間に症状調査日記に記載のある症例のうち、局所(注射部位)の特定した症状の副反応は7870例中、疼痛7103例(90.3%)、発赤3667例(46.6%)、腫脹3386例(43.0%)であった。また、全身性の特定した症状の副反応は、疲労、頭痛、胃腸症状(悪心、嘔吐、下痢、腹痛等)、発熱、発疹で7871例中それぞれ2826例(35.9%)、2341例(29.7%)、1111例(14.1%)、556例(7.1%)、434例(5.5%)、筋痛、関節痛、蕁麻疹で7320例中それぞれ2563例(35.0%)、985例(13.5%)、226例(3.1%)であった。局所の上記症状は大部分が軽度から中等度で、3回の本剤接種スケジュール遵守率へ影響はなかった。また全身性の上記症状は接種回数の増加に伴う発現率の上昇はみられなかった。(承認時)

### (1) 重大な副反応

**ショック、アナフィラキシー様症状**(頻度不明<sup>注1)</sup>: ショック又はアナフィラキシー様症状を含むアレルギー反応、血管浮腫があらわれることがあるので、接種後は観察を十分にを行い、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。

注1) 海外のみで認められている副反応については頻度不明とした。

●その他の接種上の注意等については添付文書をご参照ください。

※2010年2月改訂(第2版)

ウイルスワクチン類

薬価基準未収載

生物由来製品 劇薬 処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること)

# サーバリックス®

Cervarix® 組換え沈降2価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン  
(イラクサギンウツバ細胞由来)

グラクソ・スミスクラインの製品に関するお問い合わせ・資料請求先  
TEL: 0120-561-007(9:00~18:00/土日祝日および当社休業日を除く)  
FAX: 0120-561-047(24時間受付)

2010年12月作成



# 平成東海地震への備え 2011

※この原稿は、平成23年1月に書かれたものです。 関西学院大学災害復興制度研究所客員研究員 青木正美（東京）

## 初心に戻って

この1月17日で、阪神・淡路大震災から16年を迎える。私はあの震災の時、医療ボランティアとして神戸で過ごした10日間を、決して忘れることができない。

「この震災がもしも東京に来たら」そんな思いで書いた本誌の小論文が認められ、2006年1月に関西学院大学災害復興制度研究所の客員研究員になり早や丸5年が過ぎた。災害関連のアカデミズムの中に入って来て驚いたのは、一部の御用学者達というのは、まるで官僚とゼネコンの仲介役をやっているようなものだという事実である。震災予測をたてはするが、誰一人として責任を持ってこの国の難局を救おうとなど考えていない。それどころか、大きな災害は美味しい「メシのタネ」なのである。

そこで2011年のはじめに、筆者は初心に戻って、医師として東海地震への備えを、もう一度呼びかけてみることにした。

## 東海・東南海・南海地震で起こること

2010年現在、首都圏・中京圏・関西圏に我が国の人口の約51%が集中している。従って東海・東南海・南海地震が起こった場合、人口の約半数が地震によって直接的な被害を受けこととなる。

### ●すぐやるべきこと

短期的に最も大事なことは、東海地震の震源の真上にある「中部電力浜岡原子力発電所」を可及的速やかに停止させることである。一昨年の8月11日に起こった静岡地震において、5号機が想定外の揺れに襲われた。2010年12月現在、3号機、4号機のみ運転中である。

被災地に放射能の被害さえ防げれば、その地震でどんなに大きな傷を負おうとも、被災者は住む土地を捨てて大移動をせずとも良いのである。浜岡原発さえ止まれば、被災者は首都圏に住み続けることが出来る。が、不幸にして浜岡原発がメルトダウンすれば、最大で2000万人ほどの被災者は、土地を捨てて移動しなくてはならないだろう、チェルノブイリの被害者のように。

図は、日本地図上の浜岡原発の現在位置にチェルノブイリ原発を置いてみた。事故によって放射能被害がどの程度広がったのかを地図に重ね合わせて示している。チェルノブイリの事故では、原発から200km以上離れた場所でも高い放射能汚染が見られた。日本の地図に重ね合わせると、東京都がすっぽりと覆われる様子が分かる。

### ●1～2年内やるべきこと

中期的な目標は、「情報の確保」である。平時、読者の方々はどうのような手段で情報の収集を行っておられるのだろうか。今や携帯電話を持たないで外出することは無くなっているはずであろう。携帯電話とは、手元で容易にインターネットに繋ぐことができる。今や最大のライフラインなのである。

故に発災の直後から携帯電話が全てダウンすれば、間違いなくそれだけでパニックの度合いが増すに違いない。

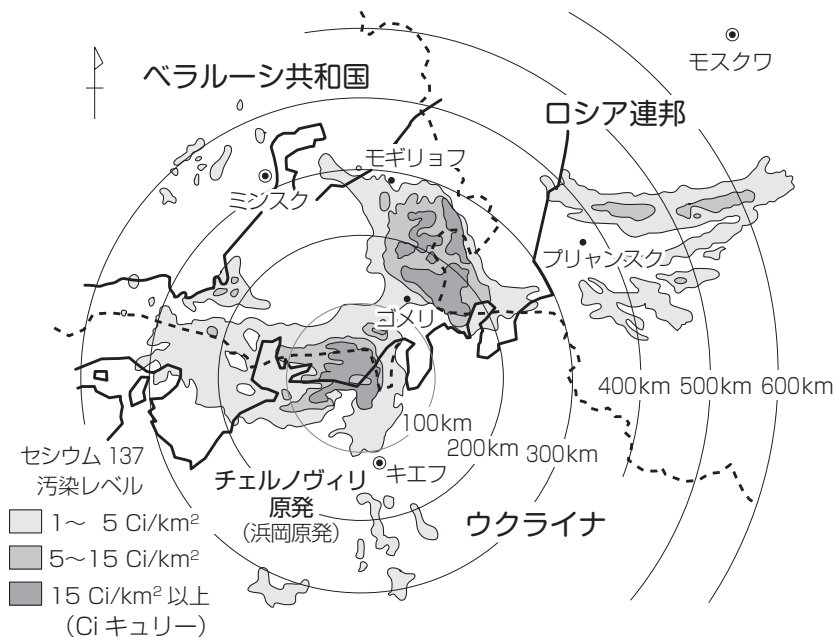
日本の携帯電話は世界標準を大きく上回って、多彩な装備がついてガラパゴス化が進んでいるらしいが、それならばいっそ、携帯電話のハードウェア自体を地震対応にするべきではないだろうか。即ち、インターネット接続機能、生存情報掲示板の充実、生存に不可欠な情報収集のためにAM・FMラジオなどへ簡単にアクセスできるような機能を各携帯電話会社に義務付けをする。

ソフト面では、商店街や公共建築物内では、誰もが必ずインターネットに繋がるように、Wi-Fiなど無線LANのネットワークにパスワードなしで接続できる「ホットスポット」を可能な限り多く作ることを提案したい。これには総務省がリードして、地方自治体をはじめとして通信企業や個人に至るまで協力して、「ホットスポット」化を推進する。

それと同時に、NTTや東京都下水道局が維持管理している光ファイバーは、まだまだ地震災害に対して万全の対応が取れていない。今後、都市のライフラインとしての光ファイバーのインフラ保全に関して、新たに積極的な公的支援が得られるように提言するべきであろう。

### ●数年内に取り組むべきこと

東海・東南海・南海地震が最も恐れられている理由は、その被災地が人口の密集地帯であるからであ



る。集中した人口をどうすれば分散できるのかが、実は最も大きな「防災」のテーマなのである。

今現在、団塊の世代がどんどん定年を迎えている。団塊の世代には、地方出身者が多く、生まれ故郷がある人が多い。そこで、彼女ら彼らが健康なうちに、故郷に帰ってもらってはどうか。故郷でなくても構わない。地震で甚大な被害を被ることが分かっている3大首都圏での暮らしをやめ、地震の直接被害のない地域へ分散するように、税制などの優遇措置を施して政治的に誘導するべきである。

また、地震が起こった時を想定して、自治体レベルでも学校レベルでも企業レベルでも個人でも、「疎開」をしっかりとシミュレーションしておくことが重要である。殊に、浜岡原発のメルトダウンがあれば、浜岡より東方には居住は不可能になる可能性が高い。であれば、どの場所にどんな形で「疎開」をするべきなのであろうか。

読者の中には、別荘やセカンドハウスをお持ちの方もおられるだろう。地震震災後は直ちに、そこが大切な生活の拠点となることをたった今から意識しておく事が大切である。

●災害時の情報源の確保についての考察

2010年12月から、IPサイマルラジオが本確定に稼働を始めた。

IPサイマルラジオとは、インターネットで聴くことができるラジオで、在京と在阪の民放ラジオ局13社が参加し、都市部の高層建築などでラジオの難聴解消などのために発足した。関東では一都六県で、東京のキー局の民放AMラジオ放送の聴取が可能にな

った。

災害対策として、被災者が携帯電話のインターネットへの接続確保が担保されれば、同時に被災者はインターネットIPサイマルラジオにアクセスが可能となり、ラジオを聴取することが可能になる。

大災害直後の情報源として、何よりも有益なのはAM放送である。AM放送各局には、あらゆる災害情報が集まり、情報を整理して放送のアウトプットを行うことになる。従って、被災直後はAMラジオで情報を収集するのが最良である。

災害の中期からは、地域に根ざしたFMラジオの精度が高い情報が必要になるかもしれない。

一方で、IPサイマルラジオの欠点は、リスナーの所在地に因って首都圏は首都圏の放送、関西圏は関西圏の放送しか聴くことができない。それ以外のエリアに住む人々には、全く聴取の機会がない放送なのである。これは、スポンサーなどの意向に因る問題と思われるが、ここを解決して、日本中の全てのエリアでインターネットに乗れば、どの放送も聴けるようにすべきである。アメリカでも韓国でも既に世界中で実施されている。

筆者が全てのエリアで聴取可能にするべきだと思う理由は、大災害が起こった時、被災地の状況と情報を他の地域の人々が共有することにより、何か大きな発見と救助の方策が得られるかもしれないからである。

更には、震災で家を失った人びとや、疎開をしてバラバラになったコミュニティーの一員に、広い範囲で情報を提供するメディアとしてIPサイマルラジオ

の活用が望まれるところである。

いずれにせよ、今や我々の生活に欠かすことのできない最大かつ最も大切なライフラインとして「携帯電話からインターネットに繋がる」という傑出したインフラを、大震災の発災の日までに、より確実に被災者が確保できるように、各方面に声を上げ提言していくことが必要であると思われる。

食べ物は何とかなる。水と情報さえあれば、人は前を向いて生きてゆけるのであるから。

## 日本女医会の役割

全国的な女性の医師で組織された“日本女医会”は、大災害が近い将来に必ず起こるといふ現実を直視し、災害時の対応について本格的に考える時期にきているのではないだろうか。

2009年に政府が出した「全国地震動予測地図」によると、今後30年以内に震度6以上の地震が起こる可能性が高い順に、静岡県、愛知県、山梨県、神奈川県、三重県、和歌山県、茨城県、千葉県、奈良県、岐阜県が85%以上の確率となっている。

これを鑑みて今後起こりうる地震災害に対して、全

国組織の日本女医会に何が期待されているのか、一人の医師としてどんな準備をすればいいのか等、考えるべき課題は尽きない。

## さいごに

民主党政権は、新しい経済戦略と称して、政府自身が他国に対して原子力発電所の技術を売り込むという態度を示している。つまり、国策で原発をセールスしている。そこで、国をあげて他国に売り込もうという製品にダメを押すわけにはいかず、浜岡原発の危険性を百も承知しながらこれを止めずに、原子力発電をクリーンエネルギーであると称して、国策として推し薦めている。

国策で原発を海外に売ることと、東海地震に備えて浜岡原発を止めることとは、根本的に全く違う次元の話ではないだろうか。

いつ起こるかもしれない東海地震に備えて、可及的速やかに浜岡原発を止めること。これに日本という一国の存亡が懸かっている事項なのだということを、今一度認識を高めて、首都圏に住む医師一人一人の議論が湧き上がることに期待したいと思う。

# 見たい情報がパツ! より使いやすくなった ツムラ漢方スクエア

医療関係者向けサイト  
**ツムラ漢方スクエア**  
TSUMURA KAMPO SQUARE

検索文字を入力  サイト内検索 powered by Google

会員登録はこちら ▶  
・会員ID/パスワードお問い合わせ  
・会員登録情報の変更・確認  
・退会

●トップページから見たい情報へ、スムーズに誘導します。

職種で選ぶ 目的で選ぶ レベルで選ぶ 項目で選ぶ

NEWS & TOPICS 最新情報から  
・サイトリニューアルしました。5/2  
・新薬「ツムラ漢方スクエア」

職種で選ぶ  
医師 ▶  
研修医 ▶  
薬剤師 ▶  
看護師 ▶

目的で選ぶ  
製品情報 ▶  
学びたい ▶  
調べたい ▶  
最新情報を知りたい ▶  
楽しみたい ▶

レベルで選ぶ  
製品情報 ▶  
EBMを中心に ▶  
漢方入門 ▶  
漢方ステップアップ ▶

項目で選ぶ  
製品情報 ▶  
学習 ▶  
学会・文献情報 ▶  
みんなの広場 ▶

医療に携わる先生方にお役立ていただけるよう漢方の古典から最新研究まで豊富にコンテンツを揃え、随時情報を追加、更新しています。ぜひ会員登録をしてご利用たまわりますようお願い申し上げます。

- 1 職種、目的、レベルに応じてナビゲーション。**  
トップページからメニューを選んで。スムーズな情報選びをサポート。
- 2 サイト内検索にGoogleエンジンを搭載しました。**  
検索エンジン「Google」を使って必要とする情報をより的確に、スピーディーに探し出せるユーザーインターフェイスを実現しました。
- 3 講師が語りかける、わかりやすいムービー形式。**  
ナマの講義をビデオ収録して、ご用意しました。聴いてわかる、見てわかる。ツムラ漢方スクエアならではのコンテンツです。
- 4 webマガジンを月2回配信中。**  
漢方に関するタイムリーなトピックスや多彩な連載記事を掲載しています。会員登録項目で、「メール配信：希望する」を選択下さい。

最新漢方情報が、カンタン操作で、今すぐ手に入る。

ツムラ漢方スクエア



株式会社ツムラ <http://www.tsumura.co.jp/>

●資料請求・お問い合わせは弊社MR、またはお客様相談窓口まで。☎ 0120-329-970

(2009年6月制作)

HT-3002

## 米国女性外科医

### 第2回 キャリア・シンポジウムに参加して

日本女性外科医会 代表世話人 富澤康子(東京)

2011年3月4日～6日、米国フロリダ州、クリアウォーターにて第2回米国 National Women Surgery Career Symposium が開催された。

主催したシャロナ・ロス先生は看護師出身、内視鏡外科が専門、4人の子持ちである。参加者はほとんど女性で、外科医、レジデント、医学生、看護師の計約250名であった。日本からの参加は1人であった。

基調講演は弁護士による女性外科医に必要な法律の知識であった。女性外科医のために、メンターの選び方、外科領域での研究、”Old Boys Club”で活躍するには、責任を負う準備はできているか、リーダーのなり方、人生のコーチ、革新的技術の時代、アカデミックな外科、大学での診療と地域密着型診療、家族生活と外科キャリアのバランス、自分の価値分の収入(The WAGE Project)、ネットワークの重要性、最初に選んだ仕事の価値、患者との関係、将来について、など盛りだくさんであった。今年は並列のセッションが、研修医・医学生、および看護師向けにあった。研修医と医学生には、外科医になるために、研修医のライフスタイル、妊娠・出産、資金援助の受け

方、外科医を目指す理由、という内容であった。

講演者の紹介を医学生が行っていた。彼女らはシャドーイングという週1回4時間、半年間にわたって外科医の影のように行動を共にして学ぶ南フロリダ州立大学のプログラムに参加していた。

ケンブリッジの外科教授が5年間に外科医33名(女14、男19)とPA10名(女9、男1)の職員において、出産17回、父親の育休1回、骨折3件、計47人の子供を養ったやりくり方法を述べた。有用な情報を含んでいた。

来年は麻酔科医のセッションも作るそうである。手術室に関係する女性医師の皆様と一緒に学びに行きませんか。



## 厚生労働省より

### 平成23年度第65回「児童福祉週間」のお知らせ

厚生労働省では、子どもや家庭、子どもの健やかな成長について国民全体で考える事を目的に、毎年5月5日より一週間を「児童福祉週間」と定めて、児童福祉の理念の普及・啓発の為の各種事業及び行事を行います。今年度も引き続き各種事情及び行事を展開することにより児童福祉の理念の一層の周知と子どもを取り巻く諸問題に対する社会的関心の喚起を図るものです。

#### 平成23年度「児童福祉週間」の概要

- 1・主 唱 厚生労働省、(社福)全国社会福祉協議会、(財)こども未来財団
- 2・期 間 平成23年5月5日(木)より5月11日(水)までの一週間
- 3・標 語 「おいでおいでみんなで一緒に遊ぼうよ」(全国公募より選定された作品)
- 4・主な取組
  - (1) 児童福祉の理念の普及
  - (2) 家庭における親子のふれあい促進
  - (3) 地域における児童健全育成活動の促進
  - (4) 児童虐待への適切な対応
  - (5) 母と子の健康づくりの推進
  - (6) 多様化する保育需要等への対応
  - (7) 障害のある子ども等に対する理解の促進



## (( (理事会議事録) ))

**日時**：平成22年11月20日(土)  
午後3時

**場所**：日本女医会会議室

**出席者**：津田、古賀、松井、山本、小関、川村、澤口、高原、対馬、濱田、藤川、細川、前田、宮本、矢口、山崎、横須賀、諏訪、宮崎、森川、中井(21名)

**欠席者**：秋葉、安部、大谷、塚田、山田、吉馴(6名)

・10月の理事会議事録を承認

### 報告事項

津田会長より、10月にブラジルを訪問しブラジル女医会会長 Marilene Melo 先生及び日系2世の山口先生との交流報告があった。禁煙活動や留学の問題など、女医会の参考や利益になる話は、積極的にアプローチしていきたい。また、米国 MD Anderson 放射線科教授 Dr.Ritsuko Komaki とお会いし、若い女性医師の方々について、自分の意思を持ち、信念を貫くようになってほしいとの意見が交わされたとの報告があった。

#### 1. 庶務部報告 (山崎理事)

- 1) 理事会を日本女医会会議室にて開催。(10/17)
- 2) 第4回軽井沢セミナーが(10/30・31)開催され29名の参加があった。溝口昌子先生の「皮膚のアンチエイジング」の講演が行われた。

(小関理事)

- 3) 日本女医会・東京都支部総会(11/6)に津田会長と松井副会長が出席。

(津田会長)

#### 2. 会計部報告 (濱田理事)

- 1) 10月分の収支を承認。

#### 3. 事業部報告 (藤川理事)

- 1) 東京女子医大学園祭にてチャットルームを開催(10/23)。高原理事らが参加。
- 2) 宮城県女医会市民公開講演会開催(11/7)。60名の参加があった。

(古賀副会長)

#### 4. 学術部報告 (前田理事)

- 1) 「新薬トピックス」の進捗状況説明。原まさ子先生の手稿をアップ。

#### 5. 広報部報告

- 1) HPの改善部分の説明。理事会の前にHP担当会社との打ち合わせを行

った。また「こころと体の相談室」への原稿を理事らに依頼。

(細川理事)

- 2) 会誌(205号)の広告協力の状況説明と、会誌(206号以降)の広告、原稿協力を依頼。(対馬理事)

### 6. 委員会報告

- 1) 子育て支援委員会ゆいネットを10/23に岐阜にて開催。(宮崎理事)  
11/21名古屋で、11/28盛岡で開催予定。(対馬理事)

### 継続審議

- 1) 医学生への国際学会等参加に関する助成について(藤川理事)。  
<継続審議>
- 2) 会員増強について(山崎理事)。

<承認>

各役員が1人以上の会員を勧誘する事を努力目標とする。

### 審議事項

1. 総会について(山崎理事) <承認>  
第56回定時総会は、第10回国際女医会西太平洋地域会議の会期中に開催される。

5/27(木)午前10時半から評議委員会

午後2時から総会を行う予定。

2. 女医会新名簿について(小関理事)

<承認>

現在はがきの返信は547名で、メールアドレスの不鮮明などの問題もあり、あまり進んではない。

1月の会誌を出す際に再度名簿のはがき提出のお願いをし、その結果次第で名簿発行の日を決定する。

3. 公益法人申請の進捗状況(羽田氏)

<承認>

10/19、(社)日本看護家政紹介事業協会に松井副会長と出向きアドバイスをを受け、支部の問題が一番重要であるとの報告があった。情報がある度に理事会で報告し、情報を共有していく事が確認された。

4. 第10回国際女医会西太平洋地域会議について(矢口理事) <承認>

1) HPでの参加登録受付が始まった。インターネットを利用せずに申込が出来るように、会誌(205号)にFAX申込用紙を同封したいと考えているので、広報部と相談して決定する。

2) 5月総会の時の懇親会は前日夜のウェルカムパーティと共に。また、総会時の講演は開会式の後の特別講演とする。

3) 12/1から抄録受付が始まるので、Awardの設置に伴って、ポスターAwardとTravel Awardの人数と金額が承認された。

4) プログラム広告の協力を理事に依頼したが、依頼企業の重複問題など、細部を組織委員会の方で再度検討し報告することに決定。

5) コングレスバッグは宮崎理事の提案のバッグ(2,000円)で、お土産を兼ねる事とし、バッグの大きさなどは再検討する。

5. 12/4、2010年NGO日本女性大会について(澤口理事) <承認>  
理事に出来るだけ多く出席してもらいたい。

6. 医学生へのアンケート調査について(澤口理事) <承認>

進捗状況の説明があり、アンケートの提出があった学校には、調査結果を報告する。12/5のキャリアシンポジウムの参加申込が少ないので、動員協力を役員らに依頼。

7. 軽井沢セミナーの位置づけについて(山崎理事) <継続審議>

8. 12月理事会の開催日について(宮本理事) <承認>

スケジュール通りに、12月の理事会は12/19(日)午後2時より、また来年1月は1/29(土)午後3時より理事会及び新年会(午後7時半終了予定・於：京王プラザホテル)を行う。

9. HPの件(細川理事) <承認>

HP内容の見直しは承認された。今後、支部関係の情報は公益法人化の決定まで掲載しない。

10. その他

- 1) 職員賞与について。
- 2) 津田会長から議員や団体から後援などの依頼には、社団法人日本女医会の中立性という観点から、公益性や公共性を考え、その都度検討をするよう要請があった。(個人は不問)

**日時**：平成22年12月19日(日)  
午後2時

**場所**：日本女医会会議室

**出席者**：津田、山本、古賀、秋葉、安部、小関、川村、澤口、諏訪、高原、塚田、対馬、濱田、藤川、前田、宮本、矢口、山崎、山田、横須賀、吉馴、中井、森川(23名)

**欠席者**：松井、大谷、細川、宮崎(4名)

- ・理事会に先立ち、津田会長の挨拶があった。
- ・11月理事会議事録を承認

**報告事項**

- 庶務部報告 (宮本理事)
  - 理事会を(社)日本女医会会議室にて開催(11/20)
  - (社)日本女医会・栃木支部総会開催(11/28)22名出席。
- 会計部報告 (塚田理事)
  - 11月分の収支を承認。
- 事業部報告 (藤川理事)
  - 学生会員の規約作りを考案中。
- 渉外部報告 (澤口理事/川村理事)
  - 「2010年NGO日本女性大会」を国際婦人年連絡会の一団体として主催。於:「サイエンスホール(東京千代田区)」(12/4)。(社)日本女医会として、展示と医療班及び刊行物やDVD等の販売を行った。
- 学術部報告 (安部理事)
 

「新薬トピックス」の進捗状況の報告。禁煙治療薬について山本蒔子先生(宮城支部)に依頼する。
- 広報部報告 (対馬理事)
  - 日本女医会誌205号の原稿提出を

理事に再度依頼。今後、(社)日本女医会が助成した市民講座などは、日本女医会誌に報告原稿掲載を原則とする。

- HP担当を細川理事より横須賀理事に変更する。

**7. 委員会報告**

- 子育て支援委員会 (対馬理事)
 

「ゆいネット連絡協議会」を11/21名古屋・11/28盛岡・12/4土浦で開催。H23年2/20に総まとめとして報告会&シンポジウムを東京・四谷にて開催予定。

- 女性医師支援委員会 (澤口理事)
 

「第4回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム」於:「女性と仕事の未来館」開催(12/5)

**8. NC 報告 (矢口理事)**

- 12/1よりHPにて「第10回国際女医会西太平洋地域会議」抄録の手続きが出来るようになった。またH23年5/27(金)開会式後の特別講演は(社)日本女医会の総会の特別講演も兼ねる)東北大学の押谷仁教授の内諾を得た。

**9. その他の報告**

- 1) 日本女医会誌 (No.203掲載・佐瀬く

らら先生)記事の転載依頼が岩手県医師会よりあり、承諾した。

(山本副会長)

- 2) 「女性と仕事の未来館」存続についての要望文を津田会長名で提出。(津田会長)

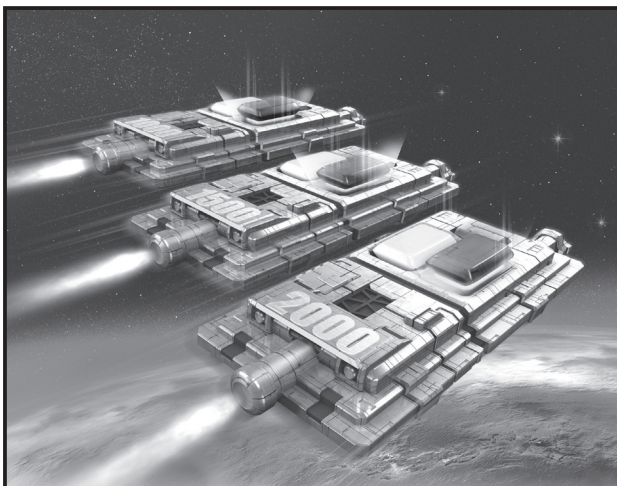
**継続審議事項**

1. 医学生国際学会等参加に関する助成について(藤川理事) <継続審議>
2. 軽井沢セミナーは、簡単な同好会規約を庶務部で作成。規約に適せば同好会と位置付ける事も検討される。(山崎理事) <継続審議>

**審議事項**

1. 女性医師支援委員会より、<「第4回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム」の反省>(澤口理事) <承認>
 

集客を考えて、開催時期・会費の金額・会場、演者の選考など更に検討する。今までの講演を小冊子にまとめて発行を考える。今回実施した学生対象アンケートの結果報告を早急に行う事とし、今後のアンケート依頼を検討する。



高カロリー輸液用 糖・電解質・アミノ酸・総合ビタミン・微量元素液

処方せん医薬品\* 薬価基準収載

**エルネオパ® 1号輸液**

\*注意—医師等の処方せんにより使用すること

処方せん医薬品\* 薬価基準収載

**エルネオパ® 2号輸液**

\*注意—医師等の処方せんにより使用すること

**ELNEOPA® No.1 Injection**  
**ELNEOPA® No.2 Injection**



◇効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。



販売提携 **大塚製薬株式会社** 東京都千代田区神田司町2-9  
製造販売元 **株式会社大塚製薬工場** 徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115

資料請求先  
**株式会社大塚製薬工場 学術部**  
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-9

(10.12作成)

2. 子育て委員会より「ゆいネット活動について」(対馬理事) <承認>

活動の3年間の総まとめとしてH23/2/20に報告会を(於:東京四谷ルークホール)開催の予定。

次年度は助成金が受け取れない可能性が高い。事業継続の為(社)日本女医会で年1回、各地域での活動をまとめた報告会を東京で開く事とする。尚、予算等については今後検討する。

3. 第10回国際女医会西太平洋地域会議の件(矢口理事) <承認>

日本製薬団体連合会に寄付の依頼をする。またプログラム広告掲載募集と企業展示の趣意書を理事に配布し、協力を依頼。コンgresバッグについて継続審議とする。

4. 各賞の選考委員、選考日また受付締切について(山本副会長) <承認>

1) 締切期日について

12/25(土)必着となっているが、今年度は土曜日の為、12/27(月)朝までに、事務局に到着した物までとする。来年度よりは12/25消印有効とする。

2) 選考委員会について

・吉岡弥生賞選考・・・会長、副会長3名、庶務部2名、会計部長(計7名)  
・荻野吟子賞選考・・・会長、副会長3名、事業部2名、渉外部長(計7名)  
・学術研究助成選考・・・会長、副会長3名、学術部2名、広報部長(計7名)

以上の選考委員で、2月の理事会の前に選考会を開催。

5. ブロック懇談会(H23/2/27於:岐阜)開催。出欠席を確認。(宮本理事)

<承認>

6. 新年会(H23/1/29・於:京王プラザホテル)出欠席を確認。(宮本理事)

<承認>

(料理は多数決により中華料理に決定)

7. 公益法人申請について進捗状況の説明。(羽田氏) <承認>

支部問題を解決するには、総会の議決が必要となり難しい。また遊休財産の扱いや予算についての補正が必要となる。今回は取下げも已む無しとして、決定は会長、副会長に一任する。

8. その他

1) 今後キャリア・シンポジウムなどの集客を考える上でも、雑誌、新聞などの刊行物やマスコミなどを利用し、又HPを活用して(社)日本女医会の活動を広報していく。

(津田会長) <承認>

2) 荻野吟子賞の副賞は5万円となっているが、昨年は3名選ばれ1名2万円となった。今回は、その点も考慮して選出する。(津田会長)

3) アニメ・ジュノー製作委員会より、広島原爆投下時に多数の薬品援助をされたスイス人医師のマルセル・ジュノー博士のアニメ映画「ジュノー」を、多くの場所で上演したいので、(社)日本女医会として後援してほしい旨の依頼があった。

既に各支部で会員が協力している。(津田会長)

**日時:**平成23年1月29日(土) 午後3時

**場所:**京王プラザホテル42F「武蔵の間」

**出席者:**津田、松井、山本、古賀、秋葉、安部、小関、大谷、川村、澤口、諏訪、高原、塚田、対馬、濱田、藤川、前田、宮崎、矢口、山崎、山田、横須賀、吉馴、中井、森川(25名)

**欠席者:**細川、宮本(2名)

・H22/12月理事会議事録を承認  
・理事会に先立ち、津田会長の挨拶があった。

## 報告事項

1. 庶務部報告 (宮崎理事)

1) 理事会を(社)日本女医会会議室にて開催(12/19)。

2) 理事会後、京王プラザ(多摩の間)にて開催される新年会についての説明 (小関理事)

3) 岐阜ブロック懇談会プログラム(案)の提出と決定事項の報告(2/27)

4) コンgresバッグの見本を回覧。

2. 会計部報告 (大谷理事)

12月分の収支を承認。

3. 事業部報告 (藤川理事)

「MsACT kick-off Meeting」を(社)日本女医会会議室にて開催(1/30) (吉馴理事出席)

また2月3日にも学生を集めて開催予定。

4. 渉外部報告 (澤口理事)

(財)市川房江記念会にて開催

の「各界女性新年交歓会」に出席(1/7)

5. 学術部報告 (安部理事)

「新薬トピックス」の進捗状況。新しく禁煙治療薬について山本蒔子先生にご執筆を依頼予定。

6. 広報部報告 (対馬理事)

日本女医会誌205号を1/25に発行し、次回の206号は4/25に発行予定。記事協力を依頼。

7. 委員会報告 (対馬理事)

1) 子育て支援委員会 (対馬理事)

「ゆいネット委員会」東京四谷ルークホールにて報告会を開催(2/20) 動員の協力依頼。

<NC報告> (矢口理事)

1) 「第10回国際女医会西太平洋地域会議」5/27に行われる特別講演に押谷仁先生から正式な了解を頂いた。演題は「グローバル化と感染症:21世紀のパンデミックへの挑戦」に決定。また申込のFax用紙を日本女医会誌205号に同封した。

2) 2月末まで抄録を受付。現在の参加申込は、国内が3人、国外が1人。演題申込が国内から1題、国外から3題という状況なので、集客等の協力を依頼。

<その他の報告>

1) 映画「八十七歳の青春～市川房枝生涯を語る」DVD推薦団体に掲載。

2) 故・三神美和先生のお別れ会が至誠会主催で2/6(日)に行われ、(社)日本女医会として甲電とお花を贈り、松井副会長が出席する。

3) シスター須藤のハイチ地震援助の報告のDVDを来月の理事会時にて見る事とする。

4) 継続の要望文を津田会長名で提出した「女性と仕事の未来館」は3月末で閉館が決定した。

5) 新事務員の面談を理事会前に行った。

## 継続審議事項

<継続審議>

1. 医学生国際学会等参加に関する助成について (藤川理事)

学生会員の規約作りが必要と考え、現在事業部で検討中。来月の理事会で再検討する。

## 審議事項

1. 公益法人申請について(松井副会長)

<承認>

申請書は一度提出しているの  
修正したものを差し替える方法もある  
が、支部や遊休財産及び予算などの  
問題を解決し、一度取り下げて改めて  
公益法人化に向けて申請をする事とす  
る。

2. 女性医師支援委員会より

(澤口理事 / 山本副会長)

1) キャリア・シンポジウムの来年度開  
催について <承認>  
開催日を9/4(日)か9/11(日)で検  
討し、場所は、四谷のルークホールに  
確認してみる。

講演者に関して、最終決定は理事会  
でするので、候補者があったら早めに  
澤口理事に相談する。

2) キャリアシンポジウム小冊子の作成  
について <承認>  
費用など考えて、改めて検討する。

3) 医学生へのアンケート調査について  
<承認>  
アンケートは現在の状態で一度縮  
めて協力大学に報告し、次に行く場合  
はアンケートの内容について再検討す  
る。

3. 第10回国際女医会西太平洋地域会議  
の件(矢口理事) <承認>

1) プログラムの内容について

・International Scientific Committee  
と称して、各国から選出して頂いた  
方たちと、プログラム委員会とで、内  
容について検討をしている(日本か  
らは山本副会長)。

・基調講演・特別講演の他に、開会式  
の後に、平敷前国際女医会会長に  
お話しをしていただく予定(この時に

平敷先生に花束をお渡しする)。

・シンポジウムやワークショップなど、  
テーマについて

(女性と糖尿病・DV問題・ジェンダ  
ー(女性医師の問題について)・禁  
煙・高齢化医療・小児のワクチン接  
種など参加国の事情も考慮して考え  
る。)などの意見が出され、他にアイ  
ディアがあったら矢口理事に連絡す  
る。

2) ランチョンセミナーは2社ともHPV  
ワクチン関係企業の予定なので、共  
同開催なども検討する。

3) プログラム広告協力と企業展示につ  
いて、更なる協力を依頼。

4) 動員については、以前の理事の方々・  
各支部長などには、改めてお願いの  
手紙を送り、参加を呼び掛ける事と  
する。

5) サブコミティメンバーを募集したい。  
主に英文抄録の翻訳等をお願いする。  
(安部理事)

6) コングレスバッグのマーク入れ、肩紐  
の長さなどについては庶務で検討(宮崎  
理事)

4. 監事について(津田会長) <承認>  
森川監事には、昨年総会時に監事  
の立候補が1名だった為、前監事とし  
て引き受けていただいたが、残り1年  
も監事を継続していただきたいと願  
いした。

5. 同好会規約について (山崎理事)  
<継続審議>

山崎理事作成の規約(案)を基に、  
庶務部で再検討し次の理事会で検討  
する。

6. 学生会員について (山本副会長)  
<承認>

チャットルーム開催などの情報を配  
信していきたいので、医学生のメーリ  
ングリストの作成のため、医学生との交  
流があった場合、メールアドレスを頂く  
ようにする。

7. 各賞の選考委員について(古賀副会長)  
<承認>

各7名の委員を選出し、任期は2年間  
とする。原則的に選考委員は推薦人  
にはなれないが、もし選考委員が推薦  
者になっている場合、その推薦者の選  
考には加わらず、他の選考には参加す  
ることとする。

「吉岡弥生賞」……津田、古賀、松  
井、山本、山崎、宮本、濱田

「荻野吟子賞」……津田、古賀、松  
井、山本、藤川、高原、澤口

「学術研究助成」……津田、古賀、松  
井、山本、安部、前田、対馬

尚、選考委員会は次回の理事会前  
(2/19)に行う。吉岡弥生賞・午後2時  
より、荻野吟子賞・午後2時15分より、  
学術研究助成・2時30分よりそれぞれ  
行う。



会員動静 (2011年3月31日現在・敬称略)

入 会	荒谷 紗 絵 (平 21 年 卒)	千代	田 物	佐々木 セイ子 (昭 23 年 卒)	神奈川
	望月 友 美 子 (昭 60 年 卒)	中	央	野村 洋 子 (昭 29 年 卒)	葛飾
	田村 幸 子 (平 4 年 卒)	練	馬	河内 十 三 子 (昭 17 年 卒)	杉並
	池田 一 美 (昭 54 年 卒)	都	下	米谷 久 代 (昭 26 年 卒)	新宿
	磯貝 晶 子 (平 5 年 卒)	神	奈	関 静 (昭 23 年 卒)	野中
	安田 香 子 (平 5 年 卒)	岐	阜	坂部 幸 子 (昭 19 年 卒)	都下
	橋山 稔 子 (平 1 年 卒)	岐	阜	平松 規 矩 子 (昭 12 年 卒)	佐賀
	石井 真 帆 (平 6 年 卒)	岐	阜	辻田 ミ ヨ (昭 20 年 卒)	福岡
	渡辺 一 美 (昭 44 年 卒)	岐	阜	勝目 愛 子 (昭 11 年 卒)	熊本
	伊藤 綾 子 (昭 63 年 卒)	岐	阜		
	服部 素 子 (昭 52 年 卒)	岐	阜		
	矢島 た え 子 (平 8 年 卒)	岐	阜		
	井東 弘 子 (昭 57 年 卒)	鳥	取		
	退 会 物	45 名			
	加藤 芳 (昭 16 年 卒)	秋	田		
鎌田 宣 子 (昭 25 年 卒)	秋	田			
長池 博 子 (昭 19 年 卒)	宮	城			





社団法人日本女医会  
**第56回 定時総会**  
 のお知らせ

諸先生方にはご清祥にて、ご活躍の事とお喜び申し上げます。

さて第56回日本女医会定時総会は、第10回国際女医会西大西洋地域会議開催と共に開催を予定しておりました。しかし3月11日の地震発生以後、協議を重ねてまいりましたが、社会的混乱を考慮し開催を中止するに至りました。

それに伴い総会および評議員会の開催日等が変更になりましたので、どうぞよろしくお願いたします。

多くの方にご参加いただきたいと考えておりますので、皆様お忙しい事とは思いますが、是非ご出席を賜りますようお願い申し上げます。

日時：平成23年5月29日（日）

場所：京王プラザホテル

〒160-8330 東京都新宿区西新宿 2-2-1 電話 03-3344-0111

評議員会 午前10時～12時 <42F：富士>

総会 午後1時～3時 <4F：錦> 登録費 3,000円

講演会 午後3時～4時「放射線と日常生活」

東京女子医科大学画像診断学核医学講座教授 小野由子先生

\*京王プラザホテルご宿泊ご希望の方は、(社)日本女医会事務局までご連絡下さい



**Hisamitsu**®



処方せん医薬品（注意-医師等の処方せんにより使用すること）

経皮吸収エストラジオール製剤

**エストラーナ**®  
**テープ°0.72mg**

エストラジオール貼付剤 【薬価基準収載】

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照下さい。

製造販売元  **久光製薬株式会社** 〒841-0017 鳥栖市田代大官町408

資料請求先：學術部 〒100-6221 東京都千代田区丸の内1-11-1

2010年12月作成

## 東日本大震災 義援金のご報告

3月11日に発生いたしました東日本大震災に際しまして、会員の諸先生方に義援金をお願い申し上げましたところ、多くの先生方からご送金を賜りまして、誠にありがとうございました。

先生方の温かいお気持ちに感謝し、出来るだけ早く被災された会員の先生をはじめ、被災地の皆様のお役に立てて頂けるようにと思っております。

(社) 日本女医会会長 津田喬子

## 義援金賛同者芳名 (敬称略・順不同)

4月14日現在 ¥8,006,000

横田登喜 (北海道)	新井寧子 (栃木)	松永和歌子 (葛飾)	橋本葉子 (東女内)	覚野綾子 (兵庫)
河瀬珍実 (北海道)	松永幸子 (茨城)	鹿田 儀子 (北)	小野由子 (東女内)	大石宏子 (兵庫)
奥山春枝 (北海道)	岩本淳子 (茨城)	船木依子 (北)	松岡瑠美子 (東女内)	藤原節子 (和歌山)
本間明子 (北海道)	芦立かつ (茨城)	長瀬美良子 (北)	今井三喜 (東女内)	大野広子 (岡山)
濱田啓子 (北海道)	秋葉則子 (千葉)	赤塚智香 (江東)	澤口彰子 (東女内)	金重恵美子 (岡山)
田代理枝子 (北海道)	堀野雅子 (千葉)	松峯寿美 (江東)	澤口聡子 (東女内)	伊藤千賀子 (広島)
工藤たけゑ (北海道)	安住真理子 (千葉)	海老根伊佐子 (江東)	矢口有乃 (東女内)	山下真理子 (広島)
藤原幸子 (北海道)	市川公子 (千葉)	諏訪美智子 (渋谷)	藤巻わかえ (都下東)	石井篤子 (広島)
小葉松洋子 (北海道)	江畑理佳 (千葉)	松村美由起 (渋谷)	荒木葉子 (都下東)	堀 郁子 (鳥取)
高橋和子 (秋田)	篠崎妙子 (千葉)	山下克子 (渋谷)	小川昭子 (都下東)	保田正子 (山口)
金子ミサヲ (秋田)	鈴木洋子 (千葉)	小山真紀子 (新宿)	今井千草 (都下東)	登坂正子 (山口)
海野淑子 (山形)	熊谷貴代 (千葉)	稲葉貴子 (杉並)	山崎倫子 (都下東)	川崎香里 (香川)
平敷淳子 (群馬)	藤縄和代 (千葉)	岡本和子 (杉並)	野々田宣子 (都下東)	麻田ヒデミ (香川)
東郷直子 (群馬)	加次井育子 (千葉)	山住美津子 (杉並)	中林瑞穂 (都下東)	西山登紀子 (愛媛)
鈴木 弓 (群馬)	三橋麗子 (千葉)	勝部令子 (杉並)	清水五百子 (都下東)	小川千春 (愛媛)
新倉保美 (群馬)	中島幹恵 (神奈川)	中島桂子 (杉並)	稚田清珠 (都下東)	白石憲子 (愛媛)
柳川洋子 (群馬)	大竹輝子 (神奈川)	中橋光子 (世田谷)	石川てる代 (都下東)	岸 澄子 (愛媛)
鈴木政子 (群馬)	米山滋子 (神奈川)	大坪由里子 (世田谷)	大塚貞子 (都下西)	植木加代子 (愛媛)
安部由美子 (群馬)	原 弥栄子 (神奈川)	藤田親代 (世田谷)	堀 幸江 (都下西)	笠置真知子 (愛媛)
木暮満す子 (群馬)	松田敬子 (神奈川)	柏原明子 (台東)	藤川真理子 (都下西)	窪 斐子 (高知)
岸 美紀子 (群馬)	松田久美子 (神奈川)	尾中妙子 (台東)	尾形彰子 (都下西)	田中十糸子 (高知)
望月和子 (群馬)	風間蓉子 (神奈川)	草間 薫 (台東)	金子智子 (都下西)	町田照代 (高知)
善如寺恵子 (群馬)	中濱昌子 (神奈川)	小田島 純 (台東)	山本纈子 (愛知)	田辺伸子 (高知)
今村純子 (群馬)	栄枝三佐子 (神奈川)	山内英子 (中央)	津田喬子 (愛知)	高橋正子 (高知)
宮原茂子 (群馬)	山崎康子 (神奈川)	青木正美 (中央)	日本女医会岐阜支部 (岐阜)	岸野和貴子 (高知)
乾裕美子 (群馬)	坂本尚子 (神奈川)	湯澤美都子 (千代田)	(初音三重子、宮崎千恵他)	植山奈実 (福岡)
新井恵子 (埼玉)	山下真紀 (神奈川)	荒谷紗絵 (千代田)	高原照美 (富山)	白水明代 (福岡)
定森真理 (埼玉)	安部井瑠美子 (神奈川)	堀口雅子 (千代田)	松村美代 (奈良)	徳永良子 (福岡)
田中蘭子 (埼玉)	桂 万寿美 (神奈川)	渡辺政子 (豊島)	武曾恵理 (大阪1)	笠原郁子 (福岡)
松岡雅美 (埼玉)	辻沢キヨ (神奈川)	溝口昌子 (中野)	笹川美年子 (大阪1)	水戸布美子 (福岡)
松村啓子 (埼玉)	富岡瑞子 (神奈川)	中山年子 (中野)	清水 聖保 (大阪1)	故・辻田ミヨの (福岡)
犬竹喜世 (埼玉)	吉田美枝 (神奈川)	平山玖美子 (練馬)	大西洋子 (大阪1)	ご遺族
小沢博子 (埼玉)	内野三菜子 (神奈川)	柏木睦美 (練馬)	松下冨美子 (大阪3)	片山真里子 (福岡)
足立喬子 (埼玉)	富川晶子 (神奈川)	角田由美子 (練馬)	高畑豊子 (大阪4)	真子弘子 (佐賀)
吉住幸子 (埼玉)	佐藤智恵 (神奈川)	吉田節子 (練馬)	和田純子 (大阪5)	千住冬子 (佐賀)
水村早織 (埼玉)	鈴木式子 (足立)	石原幸子 (練馬)	中川やよい (大阪6)	緒方文江 (佐賀)
村田郁 (埼玉)	乗原 祐子 (足立)	大杉芳美 (練馬)	保坂智子 (大阪7)	佐賀県女医会 (佐賀)
三須雅子 (埼玉)	大牟田幸子 (足立)	足立茂代子 (練馬)	大矢明子 (大阪7)	岸川由美子 (佐賀)
河鍋楠美 (埼玉)	森川由紀子 (足立)	中原千恵子 (文京)	南 路子 (大阪7)	横須賀麗子 (佐賀)
竹並 麗 (埼玉)	川村富美子 (足立)	船坂陽子 (文京)	鮫島美子 (大阪7)	和田静江 (佐賀)
大塚邦江 (埼玉)	大谷智子 (荒川)	倉科奈保子 (文京)	山田日出美 (大阪8)	内山倫子 (佐賀)
秋濱示江 (埼玉)	加藤光子 (荒川)	神田郁子 (文京)	林 麻美 (大阪9)	諸井ミサヲ (佐賀)
関根みよ (埼玉)	余田敬子 (荒川)	野村幸世 (文京)	富永恵子 (大阪9)	木下晴美 (佐賀)
佐瀬くらら (埼玉)	吉野一枝 (板橋)	菅田美保 (文京)	米田桂子 (大阪9)	田中真千子 (佐賀)
馬場安紀子 (栃木)	赤松曙子 (板橋)	川田仁子 (港)	久保心子 (大阪10)	山田京子 (長崎)
鵜原ケイ (栃木)	野澤明子 (板橋)	井上葉子 (港)	田辺晃子 (大阪10)	柳田喜美子 (宮崎)
岡田真由美 (栃木)	高橋千代 (大田)	松井ひろみ (目黒)	谷野桂子 (大阪10)	中井紀子 (監事)
日向野ハツ子 (栃木)	緒方キヨ子 (大田)	中野敏江 (目黒)	丸山優子 (大阪10)	沖田泰子 (退会) (佐賀)
山崎トヨ (栃木)	西川律子 (葛飾)	大森安恵 (東女内)	飯田泰子 (京都)	
渡辺千絵子 (栃木)	青井禮子 (葛飾)	串田つゆ香 (東女内)	藤原祥子 (京都)	
				無記名 1名

## 「第10回国際女医会西太平洋地域会議」開催中止のお知らせ

この度の東日本を襲った未曾有の大震災において、お亡くなりになりました方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された会員の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

日本女医会は、第10回国際女医会西太平洋地域会議開催を本年5月26日～29日の会期で東京において開催する準備をいたしました。会員の皆様には多大なご支援をいただきましたことに感謝申し上げます。

このような状況の中で、国際学会を開催することの是非について本会議組織委員会において協議をいたしました結果、大震災がもたらした社会的混乱を考慮し、本国際会議の開催を中止することに決定致しました。

多くの会員から演題登録および参加登録をしていただきましたが、中止という苦渋の選択をいたしましたことにご理解いただきますようお願い申し上げます。

このような国難におきまして、日本女医会としては被災された皆様に出来る限りのご支援をしたいと考えております。会員からご寄付いただきました義援金を有効に使わせていただくこと、ならびに講演会等の開催による支援および災害地医療の啓蒙活動を実施する予定であります。

今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(社)日本女医会会長 津田喬子

### 追悼

姉・野澤良美を偲んで  
日本女医会元副会長

すこやか病児保育室 小川昭子 (東京)

病児保育に全力投球で努力していた姉は、天国で皆様に感謝し、どんなに喜んでいただいていることでしょう。思えば亡き姉夫妻と開業以来昨年で五十年になります。それを目前に姉は逝去し、残念でございました。

平成三年は開業三十年で、その間大きな事故もなく地域医療に貢献出来たことに感謝し、医療以外に何かお役にたちたいと考えました。三人で市の幼稚園、保育園、校医など長年携わって居り、子どもが病気の時の母親の苦労を度々見て居り、病時保育の必要を痛感、市の後押しもあり開室を決意致しました。

しかし、何といってもすべて初めて手探りの状態でしたが、多くの方々のご協力により開室にこぎつけました。働く若い両親に大変喜ばれ、少しは少産少子の歯止めのお役にたつのかと、ほっとうれしゅうございました。

その頃、姉は全国病児協議会の副会長という名誉ある肩書きを頂きました。当時は子育て支援の行政の後押しも必要で、厚生労働省やこども未来財団などへの訪問、病児保育協議会の総会、研修会などへ猛暑の中汗だくになって動き廻っていた姿が思い出されます。

私はいつも留守番役で、申し訳なく心を痛めておりました。開室した「すこやか病児保育室」は関東地区、

中部地区で第一号で、テレビ、新聞、雑誌などの取材に追われる毎日でした。一方、新設する先生方が北海道や沖縄から見学に来室され、ある時観光バスで、保育士、看護師、市の職員の方が来られたときは本当にびっくりし、よく床が抜けなかったと、しばらく笑い話になっておりました。こうした見学者の方々にも、微細に亘り、笑顔絶やさず説明していた姿が思い出されます。几帳面で曲がったことが嫌いな反面、深い心の暖かさの持ち主でした。

平成十七年、第五十回日本女医会総会に於いて名誉ある吉岡弥生賞を受賞いたしました。

病児保育で社会に貢献した事によるものでした。月日の流れは早く、早や二十年が過ぎましたが、この間多くの先生方のご親切なご支援を頂きました。帆足先生御夫妻、保坂先生、九州の藤本先生には、心温かいお気遣いを賜り、この紙面を拝借して改めて御礼申し上げます。医師となって六十年余、大学出講して五十年、病児保育にも努力した姉、立派な人生だったと思います。「あき子ちゃま、留守をお願いね」と片えくぼの笑顔で声をかけてくれる事は二度とありませんが、私の心の中に永久に残り、「お姉様いつ迄も見守っていてね」とつぶやき乍ら、やさしい甥家族と姉の遺した医院とすこやか病児保育室を継続してゆく決心で日々過ごしております。

病児保育、日本女医会、母校などを心から愛し、「僅かな寄付がお役にたてば」と生前申しておりました。病児保育の益々の発展を天国の姉と共に祈りし、ペンを置かせて頂きます。

(病児保育研究創刊号より)

## (社) 日本女医会・事業部よりご案内

### <地域医療奉仕活動に対する助成のご案内>

平成23年「地域医療奉仕活動」に対して助成をいたしますので、ご案内申し上げます。

各地域において医療、公衆衛生等の奉仕活動を行っている日本女医会会員を主体とするグループを対象を致します。

締切期日：平成23年12月25日(日) 当日消印有効

申請書は事務局でご用意しておりますので、お問い合わせ下さい。

### <公開講演会開催依頼について>

各支部で日本女医会が主体となって公開講演会を開催して頂き、各地の実情に合ったテーマ、演者、日程を組んで、公衆衛生活動にご参加くださいますよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。各支部から開催のお申し出があれば理事会で検討し、助成を致します。

## (社) 日本女医会・学術部よりご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行っております。希望者がありましたら、応募要項に従って、事務局あて申請くださるようお願いいたします。

1. 助成の趣旨 医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

2. 助成金額 1件～30万円(3件まで)

3. 申込手続

(1) 応募資格：入会継続3年以上経過した日本女医会会員で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割を担うものであること)

(2) 助成期間：1年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、3年以上の間隔を置く。

(3) 応募方法：本会所定の用紙に、黒インキまたはワー

プロで記入。1通を提出(用紙は事務局へ請求のこと)

(4) 締切期日：平成23年12月25日(日) 当日消印有効

(5) 選考および発表方法：選考委員会において選考の上、平成24年2月開催の日本女医会理事会において決定し、申請者宛通知する。

(6) 助成金の贈呈：平成24年5月開催の日本女医会総会の席上。

(7) 受賞者の本会に対する義務：平成25年3月末日までに研究経過報告(A4原稿用紙2枚程度)と助成金使用についての簡単な収支報告を提出すること。

(8) 送り先：社団法人日本女医会 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7 ☎03-3498-0571

## (社) 日本女医会よりご案内

### <日本女医会吉岡弥生賞推薦について>

平成23年「日本女医会吉岡弥生賞」受賞の適格者を本会理事または支部長宛にご推薦くださるようお願い致します。

締切期日：平成23年12月25日(日) 当日消印有効

次の書類を添えて、ご推薦をお願いいたします。

1. 候補者の履歴書

2. 業績 A：医学に貢献した現会員

B：社会に貢献した現会員

3. 推薦理由(推薦者の氏名、捺印をもって提出)

### <日本女医会荻野吟子賞推薦について>

平成23年「日本女医会荻野吟子賞」受賞の適格者を本会理事または支部長宛にご推薦くださるようお願い致します。尚、会員・非会員を問いません。主に地域医療に貢献された方を対象としています。

締切期日：平成23年12月25日(日) 当日消印有効

1. 候補者の履歴書

2. 業績(地域に貢献した方)

3. 推薦理由(推薦者の氏名、捺印をもって提出)

### 編集 後記

2011年3月11日、未曾有の大震災があってから、日本中いや世界中の人々が言葉を失っています。あまりにもひどい現実の前には、ただただ茫然とするばかりです。どうしたらいいのか、何を言えばいいのか、あまりにも無力を感じています。

でも、何とかできないか、少しでも役立つ情報が提供できればと、皆が動き出したのも事実です。日本女医会も、震災後すぐに支援と情報提供を始めました。復興にはまだまだ遠いけれど、みんなができることを少しでもやっていきたいと思えます。女医会誌も、ホームページやツイッターといったリアルタイム情報とは違った、後世の女性医師や医療にとって意味のある情報や記録を発信していきたいと思えます。皆で力を合わせて頑張りましょう。(対馬)

## 日本女医会誌

復刊第206号 2011年4月25日発行

編集人 対馬ルリ子

発行人 津田 喬子

制作 あづま堂印刷

発行所 社団法人 日本女医会

☎150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7

青山宮野ビル

TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

<http://www.jmwa.or.jp>

e-mail : [office@jmwa.or.jp](mailto:office@jmwa.or.jp)